

一般社団法人 鳥取県建築士事務所協会



建築ととと

No.97

2018.3



T O T T O R I A R C H I T E C T O F F I C E A S S O C I A T I O N

CONTENTS

巻頭言	■ 中山 貴雄 鳥取県西部総合事務所長 大山開山1300年祭を迎え	3
年頭所感	■ 霜村 將博 会長 塚田 隆 副会長(東部担当) 井手添 誠 副会長(中部担当) 吉田 成年 副会長(西部担当)	4 5 6 7
創立50周年記念回想	■ 来田 信弘 業務委員会(式典担当) 小谷 真一 総務委員会(講演会担当)	8 9
県外研修会報告	■ 全国大会和歌山大会研修記 29.10.6 佐藤 実 フォーティイ設計合同会社 29.10.7 川口 俊光 井木組建築設計事務所 29.10.8 木下 俊哉 木下俊哉建築設計事務所	10~13
見学会・講演会	■ 鳥取県産材木材とCLTの活用について ■ 先駆的木造建築シンポジウム	14 15
建築物紹介	■ 鳥取県立米子東高等学校 あおい総合設計・桑本建築設計共同企業体	16・17
クローズアップ	■ 北中 彰拡 北中建築設計事務所	18
支部の動き	■ 一木会 会長 塚田 隆 ■ 一水会 幹事 村中 耕作 ■ 山水会 会長 吉田 成年	19 20 21
事務局だより	■ 会議報告、会員の異動、行事予定	22・23



表紙のことば

大山寺阿弥陀堂(建物、仏像とも国の重要文化財)

大山寺にある寺院の中で最古の阿弥陀堂(阿弥陀如来を本尊とする仏堂)。建物は貞観7年(865)慈覚大師の創建といわれる。現在の建物は、享禄2年(1529年)に山津波で倒壊の後、天文21年(1552年)に現在の場所に再建された。その際古材が使用されており、建築様式に鎌倉時代の様相をとどめている。正面5間、側面5間、屋根は宝形造、薄い木の板を積み重ねたこけら葺きとなっている。

2017年にこけら葺き屋根の修復工事を行っている。本尊の木造阿弥陀如来は丈六(2.79メートル)、1131年に造営されたと伝えられている。(写真提供:大山町教育委員会、文:守山康仁)

大山開山1300年祭を迎え



鳥取県西部総合事務所長

中山 貴雄

鳥取県が誇る名峰「大山」。様々な魅力を有する大山は、全国の人々に愛され、憧憬の対象となっています。地域にとっても大山は特別な存在で、私たちの暮らしに深く関わっており、「大山さん(のおかげ)」という言葉に象徴されるように、地域には大山に感謝の念を捧げ、大山を仰ぎ見る暮らしが息づいています。

今年は大山寺が開創(開山)されてから1300年目の記念すべき年であり、地元の大山寺や大神山神社で特別な祭事・取組を行うとともに、伯耆国(県中西部)エリア全域で、地域が持つ自然、歴史、文化、食など様々な魅力を磨き上げ、全国にアピールしていく伯耆国「大山開山1300年祭」(以下「1300年祭」)を展開していきます。

5月に大山寺で行われる「開創法要」(5/20)を皮切りに、伝説の刀工「伯耆安綱」の刀剣などを鑑賞いただける特別展示「大山山麓の至宝」(7/29～8/26)、かつて大山詣りに供された古の大山道をたどり、日本遺産のストーリー、大山の自然や歴史を合わせて楽しむ「新しい『大山詣り』ホーリートレイル大会」(9/30)、荘厳かつ幻想的な夜の大山の情景を体感いただく「1300本のたいまつ行列」(9/30)、大山の恵みの食材を使い大山をイメージして創作された記念料理・おもてなし料理の提供など多種多様な催事・取組を行います。市町村や民間団体が開催するものもあり、5月から11月までを中心として、大山の魅力を体感できるイベント・催事が目白押しとなっています。

8月には、中核催事として、伯耆国「大山開山1300年祭」記念式典(8/9)、第3回「山の日」記念全国大会(8/10、11)を開催。1300年にわたり自然と共生してきた人々の営みや大山の歴史・文化・伝統、そして自然保護憲章発祥の地であり「一木一石運動」「キャリアダウンボランティア」が根付いた「山を守る聖地・大山」を全国にアピールします。

10月には、本県最大規模の食の祭典「農と食のフェ

スタinせいぶ」と一体的に実施する形で、「大山ワンダーフォーラム」(10/20、21)を開催し、歴史・文化・自然・食など大山圏域の百花繚乱の魅力を一気に県民の皆様、観光客の皆様々に味わっていただきたいと思いをします。

こうした1300年祭の取組を通じて、刀剣文化など新たな歴史文化素材の発掘・発信、たいまつ行列など人気の催事の拡大実施や夜の魅力を生かした宿泊付き観光による誘客の拡大など、大山圏域の秘めたポテンシャルを掘り起こし、新たな魅力を磨き上げ、1300年間育まれた大山への祈りの歴史や文化、大山からもたらされる恵みとともに、次の1400年へと繋げていくための遺産(レガシー)を残していきます。

既に、大山ブランドを扱う事業者が集結し、圏域の盛り上げや大山の魅力の全国発信に取り組む「大山ブランド会」、西部7商工会が連携し、圏域外での情報発信、地域への誘客促進を進める西部ブランディングプロジェクト「大山時間」など、地域の産業が団結して、全国に打って出る取組などが湧きおこり、1300年の先を見据えた動きも加速化しています。

今、大山では、日本遺産認定、国立公園満喫プロジェクト採択をはじめ、JRの山陰アスティネーションキャンペーン(鳥取県・島根県)、JTBの「日本の旬」(中国5県)など、大きな風が吹いています。隣の島根県では、不昧公200年祭記念事業も開催されます。こうした追い風を活かし、県民の皆様や全国の大山ファンのお力添えを賜りながら、一丸となって1300年祭を成功に導きたいと思いをします。

(一社)鳥取県建築士事務所協会及び関連団体の皆様、ぜひ、今年は伯耆国・大山圏域で、1300年祭を満喫していただき、「あなたの大山」を見つけてください。



成年を迎えて



(一社)鳥取県建築士事務所協会
会長 霜村 将博
(株)白兔設計事務所

会員の皆様、そして賛助会員の皆様、昨年度は創立50周年記念事業へ多大なるご協力を賜り、盛大な事業が出来ました事に心より感謝を申し上げます。

さて現在、社会では働き方改革や生産性の向上、また後継者の養成などが大きな話題となっておりますが、私たちの業界もこれらの問題に取り組んで行かなければ時代の波に取り残されてしまいます。

これらの問題に取り組むべき具体的な課題を挙げてみたいと思います。

1)、働き方改革と雇用、そして後継者の確保

平成30年2月の初旬に経済団体の企画で鳥取大学、鳥取環境大学そして鳥取短期大学の学生、計16名と「学生と経営者による地元企業の魅力発信」というテーマで懇談会を開催しました。その中で学生の要望として、一般企業に対してという事ですが、特に印象に残った事は

- 1、福利厚生面の充実した企業(週休2日制、有給休暇がある、残業が無いなど)
- 2、給料は20~22万円位
- 3、キャリアアップ費用は企業で負担(資格取得、講習会経費など)
- 4、終身雇用は望まない(条件の良い企業があれば転職をする)

など、私たちが就職をした時代とは大きく様変わりをしていました。

この様な働き方や賃金の条件を示さなければ今の学生はこの業界に魅力を感じてくれないのかも知れませんが、私たちの業界にも多くの卒業生の皆様が就職しておられる国立米子工業高等専門学

校の学生の皆様とも意見交換をする機会を作ってみたいものと考えております。

2)、生産性の向上

職員の数を増やさずに生産性を上げようとすれば機械化を進めて行かなければ成しません。それにはBIMシステムの導入などが考えられますが、導入経費やオペレーターの確保などかなりの経費が必要となります。

現在このような問題に対処すべく建築設計三会(日本建築士事務所協会連合会、日本建築士会連合会、建築家協会)は国土交通大臣が定める業務報酬基準「告示15号」の改正について国土交通省と協議を進め、国土交通省では現在、平成30年度に改正案を纏めるため全国の設計事務所1,400社に対してアンケート調査を実施しています。また、この改正案には適正な設計工期の設定も含まれていると聞いています。これらが纏まれば業務量に見合った適正な業務報酬や設計工期が得られる事になり、これらは企業の経営基盤を安定させ、労働環境や労働時間の維持向上を図る事ができ、職員の新規雇用や事務所の機械化を推進していく事が可能と成ります。そのために当協会としても改正される業務報酬基準を官公庁のみならず、民間事業者にも広く理解して頂くべく活動をして行かなければならないと考えています。

今年一年、更に鳥取県建築士事務所協会発展のため会員・賛助会員の皆様のご協力をお願い申し上げ、挨拶と致します。



成年を迎えて



(一社)鳥取県建築士事務所協会
副会長 塚田 隆
(有)塚田隆建築研究所

新年を迎えて早2ヶ月が過ぎました。会員の皆様におかれましても、よき年をお迎えになり、業務に邁進されていらっしゃる事、お慶び申し上げます。今年度大きな節目となります、創立50周年を迎えました(一社)鳥取県建築士事務所協会は平成30年1月26日に記念式典を終え、全ての記念事業を成功裏に終えることが出来ました。

これもひとえに会員の皆様、そして賛助会員の皆様のご支援ご協力があったこそと心より感謝しております。この場をおかりいたしまして、深くお礼申し上げます。来年度は創立して半世紀を越え、最初の一步となるわけですが、創立当初の理念を忘れることなく、新たな気持ちで迎えたいと思います。

さて、昨今『働き方改革』という言葉が盛んに言われております。これは、一企業だけではなく、業界全体として早急に取り組んでいかなければならない重要課題です。昨年、日事連においても業務環境改善ワーキンググループを立ち上げ検討に入っている状況です。働き方改革のテーマとして、50周年記念講演のテーマでもありました若手技術者の育成にも重なります「人材育成」。そして退職の際には「転職・再就職支援」、少子高齢化に伴う介護、育児に関わる柔軟な働き方などがあげられています。人生百年時代を迎え個人が長く働くには、企業にその支援が求められ、そしてなにより働き方が変わる時代であることを認識新たにしなければいけない時が来ています。

働き方改革の本質について考えますと、企業が持つ人材の潜在能力をどれだけ引き上げることが出来るのか、つまり個々が持つ潜在能力を有効活用出来る

るか、と言うことでしょうか。これまでの職業人生は40年、45年ほどでしたが、これからは60年、70年もの長さになります。様々な環境が激しく変化し、より長く働かなければならない時代がすぐそこまで来ています。企業にとっても個人にとっても、一人ひとりが持つ潜在能力を高めることが生産性を高めることにつながり、それは個人、組織の二つの面から考えなくてはいけないと思います。個人の問題で何が大事かという「人がどう幸せに働くか」に尽きます。働き方改革とは本来、どうしたら人は幸せになれるのか、を考え様々な問題を解決していくことです。

建築教育の現場ではすでに半数が女性です。建築界において女性を積極的に登用する必要性が生じています。これに伴い女性が結婚、子育てと様々なライフステージを迎えても建築を仕事として働き続けることの出来る環境整備が早急に求められています。徐々にではありますが長時間労働のイメージが強い建築設計業界でも、組織としてワークライフバランス(仕事と生活の調和)の取り組みがすすめられています。

様々な課題に向かって、皆様とともに知恵を持ち寄って改革に向かっていこうではありませんか。今年、成年ですから、ワンダフルな1年にしていきたいと思います。





成年を迎えて



(一社)鳥取県建築士事務所協会
副会長 **井手添 誠**
(有)井手添建築設計事務所

副会長をさせていただいて、1期2年が終了しようとしています。この任期中の出来事と今後の展望について、所感いたします。

一番の出来事は、平成28年10月21日14時7分に起こった鳥取県中部地震です。マグニチュード6.6が、深さ約11kmの直下で発生し、倉吉市で最大震度6弱を記録しました。これほどの地震にもかかわらず同期成分が短かった事もあり、建物の倒壊などは、あまり見られませんでしたが、瓦屋根の落下、屋外突出部の破損、盛土の陥没、擁壁の傾きなどが、多く見られました。支部長になって、半年も経っていない時期でしたが、地震直後より、市町村の建築関連部署より、相談、依頼等があり、対応が大変でした。民間の方よりも様々な相談がありました。避難施設などの点検は、近くの事務所に依頼しました。とはいえ、中部の事務所自体も被災者であり、動ける事務所が少ないのが現状でした。優先順位の低いと思われる相談はお断りしたり、東西部の事務所をお願いすることもあり、会員の皆さまには、色々な支援をしていただきました。この場を借りて、御礼申し上げます。

2年目は、当協会の創立50周年でした。平成29年11月25日、50周年記念事業として、ハワイアロハホールに建築家・伊東豊雄氏を招いて、記念講演会及び、クロスセッショントークを開催いたしました。交通の便が良いとは言えない会場でしたので、定員494人の会場を一杯にするのは困難だと言われていましたが、実際には、500名を超える人に来場いただき、満杯の会場で50周年を祝えたことは、うれしい出来事でした。担当をしていただいた、小谷委員長ほか、総務企画委員会の皆さん、大変ご苦勞さまでした。

中部地震から創立50周年等、あっという間の2年間でした。鳥取県中部地震は、発生から1年を経過しましたが、未だ復興までは至っておりません。倉吉市では、当初1年間の支援としておりましたが、市内の住宅にブルーシートが多く残っており、被災者住宅修繕支援金の補修工事完了期限を、平成30年10月21日までに延長しました。鳥取県中部総合事務所・中部地震復興本部も、生活復興支援として、これら修繕が進んでない住宅などに対し、建築士、弁護士などの派遣も含め、個別に対応していく事となっています。協会としても、復興に向け、支援を続ける必要があると思います。

明るいニュースとしては、鳥取県立美術館の候補地として、未来中心となりのラグビー場が選定されました。今年度よりPFI事業の可能性を含め、基本設計が進められます。本協会も、業界団体としてかかわっていく必要があると思います。

今年は、平昌冬期オリンピックが先日終わり、いよいよ東京オリンピックまで2年あまりとなりました。東京では、準備工事に建築技術者が不足しており、就職も含め、ある種のバブルのような景気であると聞きます。しかし、鳥取県では、逆の影響もあり、設計事務所などの技術者不足が起こっているように感じます。50周年テーマである「次世代に向けての人材育成～若者をどう育てるか」が、急務であると感じます。建築設計とは、人間の営みの中で、必要な技術であります。新規にこの業界に参加し、技術の継承をしようとする若者が少ないと思います。将来へ向けて、働き方改革を含めた、人材育成が重要であると感じております。



成年を迎えて



(一社)鳥取県建築士事務所協会

副会長 吉田 成年

(有)安達建築設計事務所

今年、当協会創立50周年記念式典からスタートしました。50周年のテーマ「次世代に向けての人材育成 ～若者をどう育てるか～」の通り、どの業界でも言えることかもしれませんが、設計の世界でも人手不足(特に若者の)は深刻です。なかなか建築を志す若者が集まりにくいということを日々実感しております。事務所協会の会員の平均年齢も高くなり、建築事務所を新たに開設してやっていこうという独立心旺盛な人も少なくなってきたような気がします。県内の若者が都会ばかりではなく、地元に残ってしっかり働けるような、そんな職場環境、労働条件、やりがいを持てるようなそんな設計業界にしていかななくてはかなくてはなりません。巷では「働き方改革」なる言葉もよく耳にし、政策も実行されようとしています。これまでのような深夜まで残業して仕事をするのが当たり前という設計事務所の考えは、経営者も改めていかに効率よく、生産性をあげていかを真剣に考えなければなりません。発注者に対しても正当な報酬をお願いし、不必要ともいえるような業務については出来るだけ無くすよう双方が努めるべきです。

ただ、建築関係の法律も日々改正され、だんだんと提出書類、計算が増えてきています。省エネも時代の流れでしょうが、これにかかる労力・金額もバカになりません。

労働時間は短くしたいが、昔に比べ同じ仕事でも業務量は倍近く増えている。

単純に報酬をアップして頂ければいいという問題でもありません。本当に働き方改革を実施し、きちんとした利益を確保出来る体制にしなければ私達の業界って若者にそっぽを向かれるばかりではないでしょうか。

今年の西部支部・山水会は、住まいの無料相談会をもっと充実したいと私は考えています。

これまでは、こちらから積極的にアピールすることもなく漫然とやってきた感もあるので、是非今年はこちらから仕掛ける・もっと知って頂いて沢山の方に相談に来て頂けるようなそんな催しにしたいと思っています。また、そのほかの支部の活動も、昨年は少し息切れしましたが、目標を立て、一年が充実した支部活動が出来たらいいなと考えています。





50周年記念式典 回想記

業務技術委員会 委員長 来田 信浩

(株)桜や建築設計工房

毎年のことであるが、夏から秋に掛けて業務技術委員会は忙しい。県外研修の企画、準備、実施があるからである。まして今年は、全国大会があるため2泊の行事となる。25～30名が一緒に行動し、施設等の見学をし、食事をし、飲む。移動のバスの中でも、当然、楽しく飲む。責任者にとっては相当な精神的負荷を感じる行事である。これが終わらないと、次の協会行事のことなんて、考えられない！そんな状態だった。かくして10月6～8日の3日間、和歌山・那智勝浦方面の強行研修、無事終了となった。



10月17日、第4回理事会。50周年事業における記念式典・祝賀会の担当が業務技術委員会であることを、初めて実感する。式典は、明けて1月26日。3ヶ月しかない。まだ、何も始動してない…！あわてて、委員会を招集することになった。

10月27日、業務技術委員会を開催。委員会として初めて式典・祝賀会について協議。式典開会に当り、必用な役割、その人数については、40周年記念式典を踏襲することとした。概ねの役割分担を即日決定。一部、委員会を超えて役割をお願いすることとなる



方々には、当方が直接依頼することとなった。ホテルとの打合せは、11月1日。当方は、当日某講習会での講師を引き受けているため、前嶋専務に一任することにな

る。問題は、プロにお願いすることになった司会の件。あてもツテもないため大きな問題として残ってしまった。とりあえず、記念公演でのアナウンサーの段取実績のある小谷総務企画委員長に打診してみるも、日は過ぎていった。

11月25日、50周年記念公演。山下前会長に、日事連・大内会長の鳥取到着時の出迎え等を依頼。その際、大内会長の突



然の辞任と、後任会長の未定の旨を知る。うーん…ま、どうにかなるだろうと気を整える。赤山さんから、司会に元NHKアナウンサーの浜井さんという方はどうかと教えていただく。即、塚田大会委員長、前嶋専務に了解を得て、赤山さんに浜井さんへの伝達を依頼する。

12月18日、業務技術委員会を開催。前回よりもさらに、役割分担を細分・明確化。式典の流れを出席者全員で確認。ホテルとの打合せ内容を確認し、微調整を依頼することとなる。功労者表彰の際にお渡しする記念品を、カレンダー、温度・湿度計にもなる卓上型の電波デジタル時計と決定する。当然、記念品の旨の金文字入れ仕様である。



12月22日、司会の浜井さんと顔合わせ。前嶋専務と当方にて、式典の流れや、来賓についての説明をする。やっと、大きな問題が解決し、ほっとする。

明けて1月16日、三役会に出席。式典・祝賀会の流れ、来賓の方々の動き・テーブルの割り当て等の最終確認を行う。当日掲げる協会旗を10年ぶりに広げてみると、なんと頭が「社団法人」となっていることを発見。「一般社団法人」としなければならぬため、即、新しい協会旗を発注する。

1月26日、式典当日。皆さん打合せ通りの役割をそつなくこなしていただいた。当方は写真と裏方で走りまくり。司会の浜井さんはプロモード。県からの感謝状

授与の際に若干まごついたが、来賓の方々の祝辞も暖かく、式典、祝賀会とも盛況に終了した。

終わってみれば、夢の跡。これもスタッフとして動いていただいた方々、色々と助言や情報を与えていただいた協会の方々のご協力の賜物。ただただ、感謝申し上げます。ありがとうございました。



50周年記念講演 回想記

総務企画委員会 委員長 小谷 真一
(株)セイク設計

昨年11月25日に行われた伊東豊雄氏による記念講演並びに、クロスセッショントークの事業の担当委員長をさせていただきました。理事となり記念事業の担当を任された際には、「創立50周年の担当が私でよいのか?」とも思いましたが、せっかくなので普段ではなかなか会うことのできない人にご講演いただく腹をくくりました。

建築家を講師に呼んで人が集まるのかという不安もありましたが、この協会がやるべき事業は建築業界の将来のために道を切り開くことだと思い、著名建築家を呼ぼうということでこの企画はスタートしました。なにより私が会ってみたいかったのですが…

講師の選定にあたっては、著名な方をリストにあげ、ひとりひとり直接交渉していくという作戦でしたが、理事に鳥取県出身の総合資格学院岸社長をご紹介いただき、その岸社長より伊東豊雄氏をご紹介いただき、話をまとめていただいたので講師の選定までには多くの時間がかかりませんでした。

会場は中部のアロハホール。交通の便も悪く収容人数500人集められるのかと、不安の声がありました。しかし集客に関しては高いノルマが設定され、各支部副会長を中心に広報活動にご尽力頂き、西部からはバスツアーまで組んでもらったおかげで当日は満員御礼となりました。惜しむらくは高専の期末試験と時期が重なり、一番聞いてほしかった学生に來れない方がいたことでしょうか。

事業の準備については、私の準備不足の資料を委員会で確認いただき、多くのご指摘を頂いたのですが、それに一つ一つ対応することで準備をすることができま

した。ホールの空気がなく、下見が一日しかできなかったので設営の不安もありましたが、当日は皆様経験値豊かな方ばかりなので各セクションに心配することはありませんでした。

こうして振り返ってみると、それぞれの不安は各支部副委員長をはじめ理事の皆様、総務企画委員会のメンバーや会員の皆様に解決して頂き、支えて頂いたおかげで無事事業を終えることができました。皆様ありがとうございます。事業実施にあたり皆さんから「大変でしたね」と声をかけてもらいましたが、渋谷の伊東事務所まで重たい梨をもって打ち合わせに行くなど、事業実施まで道中楽しんで準備を進めることができました。事業の担当委員長として貴重な経験をさせていただきましたことに感謝申し上げ回想とさせていただきます。

最後になりますが、何よりこの事業を通じて自分にとって一番良かったことは、中部はもとより東部、西部の方々と親密になれたことだと思います。皆さんから頂いた「慰労してあげるからね」の日を楽しみにしております。



平成29年10月6日から8日にかけて、第41回建築士事務所全国大会和歌山大会と、恒例の県外研修を兼ねて実施しました。

初日の和歌山市での全国大会から始まり橋本市へ宿泊、2日目は「和歌山県世界遺産センター」～「熊野本宮大社」～奈良県をまたいで「わたらせ温泉」で昼食～さらに県をまたいで「三重県立熊野古道センター」～「那智大社・那智の滝」～宿泊は「勝浦温泉」。そして3日目は「くじらの博物館」と「南方熊楠記念館」を視察の後、「とれとれ市場」からの昼食・買い物という、楽しさ満載・見所がぎっしりと詰まった工程で行われました。



大阪駅にて

1日目

和歌山大会

参加者は総勢27名。東・中・西各支部単位で大阪に集合し一行は電車で和歌山へ。会場へ到着すると美しい平安衣装を身にまとった女性のお出迎えがあり、まずは記念撮影。友好ムードが高まる中、会場内・大ホールへ続々と来場者は着席していきました。全国大会参加者27名は中四国ブロックでは最大の参加者数でした。

全国大会は「時を紡ぐ明日へと～歴史・文化・自然～」を大会テーマに掲げ開会されました。基調講演では藤森照信氏(東京大学名誉教授)が「歴史と文化と自然を活かした建築」と題し、木をテーマに建築の歴史や自作について語っていただきました。

屋根に草や木を生やした建築や、木の上に立つ茶室「高過庵」、梁を省いたモノコック構造の床で構成された茶室など、これまでにない建築に挑戦し続けている藤森氏の姿に、来場者は改めてチャレンジ精神が湧いてきた方も多かったと思います。

続くパネルディスカッション「木の国で語る」では、原田浩司氏をコーディネー

中四国ブロック 総数 142名	
鳥取会: 27名	島根会: 21名
岡山会: 14名	広島会: 24名
山口会: 14名	徳島会: 19名
香川会: 13名	愛媛会: 15名
高知会: 17名	

ターに、藤森照信氏、本田友常氏(摂南大学理工学部特認教授)、腰原幹雄氏(東京大学生産技術研究所教授)、安井昇氏(桜設計集団代表)のパネラー4名で、県の77%が森林という「木の国」和歌山県らしいテーマで、木造をめぐるここ数十年の変化や法改正、山の実態やこれからの可能性について、それぞれの立場から多角的な議論が繰り広げられました。



和歌山大会会場

築80年の現役木造建築・高野口小学校の保存改修を実現した話、都市木造として都市部にも木造ビルを建て荒れた森を考えるきっかけにする話、「ゆっくり燃える」木の長所や「燃えない建築」でなく「燃え抜けない建築」が重要であることなど、非常に印象深い内容満載でした。

真剣な議論の中にも和やかな雰囲気では話は進み、最後に木造設計の楽しさについてパネラーひとりひとりから熱のこもったメッセージに、来場者は耳を傾けていました。



和歌山大会会場

そして続いて行われた大会式典では、年次功労者として鳥取会から岩崎浩さんが表彰されました。

式典を終えると、ここから貸切バスに乗り込み初日の宿泊地・橋本市へ。軽快なバスガイドさんの観光案内に誰もが感心しつつ紀ノ川を東へ東へ上っていきました。

ホテルへ到着すると辺りはすでに暗くなっており、すぐにホテル横の海鮮居酒屋へかけこむとまずは乾杯。鳥取にも負けず劣らずの和歌山の新鮮なネタをゆったりと堪能し、ここでも岩崎さんの表彰を大いに祝いながら皆がグラスを交わしあいました。（東部担当 佐藤記）



和歌山城より和歌山市街遠望

2日目

和歌山県世界遺産センター

10月7日 研修2日目は橋本のホテルよりバスに揺られ、和歌山県世界遺産センターを目指しました。このルートは国道168号線十津川街道で、高速道路を使わない日本一の長距離路線バスが運行されています。又、十津川街道は隘路としても有名で、途中谷瀬の吊橋に立ちより、約2時間半で世界遺産センターに到着しました。すれ違いが困難な狭隘区間も多いのですが、ベテランのバスの運転手さんはスムーズに運転していました。

和歌山県世界遺産センターは和歌山県産のヒノキを使用した木造建築で、世界遺産について体験しながら学べる交流スペース、紀伊山地になぞらえたエントランス～回廊ゾーンは人々の祈りを回る旅路、ガイダンスゾーンはより深く理解するために設けられています。また、次世代育成の為の小学生から高校生までの事業支援もされています。

熊野本宮大社

世界遺産センターから歩いて次の目的地 重要文化財の熊野本宮大社へ向いました。

当日は天候にも恵まれ、熊野大権現の奉納幟が立って



熊野本宮大社



熊野本宮大社全景



熊野本宮大社入口

いる158段の石段を、息をきらしながら本殿目指して上っていきました。入母屋造の第1殿・第2殿、正面切妻造・背面入母屋造の第3殿・第4殿に参拝しました。これらの社殿は、1889年の熊野川の洪水で流出を免れた社殿を現社地にそのまま移築したものです。

わたらせ温泉～昼食

昼食は熊野本宮大社近くの、わたらせ温泉のホテルでいただきました。早朝からバスの揺れと、石段の上がり下りで皆さんおつかれでしたが、おいしい料理と飲み物でひと息つきました。

三重県立熊野古道センター

昼食後最初の目的地は三重県尾鷲市の三重県立熊野古



熊野古道センター

道センターです。熊野古道の三重県内区間である伊勢道が有り、世界遺産紀伊山地の東入口となります。建物は木造建築で2007年開館し、三重県産の尾鷲ヒノキや熊野スギをふんだんに使用しています。建築関係者からもかなり注目されており、BCS賞、日本建築学会作品選奨、公共建築賞を受賞しているようです。同じ寸法の角材（135角）を組み合わせた組柱・組梁・組壁による軸組はトラスや集成材を使わずに柱間10.5m、軒高6.7mを実現し、「等断面集積木材構法」と命名されています。展示棟から交流棟が対象に配置されて木造の直線的な美しさと力強さが印象的でした。

那智大滝～熊野那智大社～ホテル浦島

次の目的地である那智の滝は約1時間で到着しました。この滝は日本三名瀑にかぞえられており、総合落差は日本12位ですが、一段の滝としては落差日本一とのこと。前日は雨が降っていたので水量も多く、滝見台から見る姿は非常に迫力がありました。次に重要文化財熊野那智大社へ参拝し、本日の宿泊地勝浦温泉「ホテル浦島」へ船に乗って入館。宴会で盛り上がり、大洞窟露天風呂等の数多くの風呂でゆっくり汗を流し、朝は部屋から感動的な日の出を見ることができました。

(中部担当 川口記)



那智山奥の院展望台

3日目

ホテル浦島～くじらの博物館～南方熊楠記念館～とれとれ市場（昼食・買い物）～和歌山駅～新大阪駅（解散）

昨夜は和歌山の地酒と、地元くじら料理を堪能した。少し過ぎて熟睡。朝5時に起床して大洞窟露天風呂へ直行、朝日を拝んだ。湯船の中からの日の出は格別なものだ、地平線からゆっくりと顔を出す、白々と明るくなり一面の波がキラキラ光る、感動的である。朝食はバイキングで和洋豪華満載、ここでモーニングビール…の方もいた。いよいよホテル浦島を後にフェリーで対岸本土に渡り、貸し切りバスに揺られて南紀白浜を北上、大地町立くじらの博物館へ到着する。和歌山勝浦は捕鯨先駆者がたくさんおられ、開拓が進んだ町である。

くじら記念館ではイルカショーが行われており、皆、童心に帰って見物し楽しんだ。



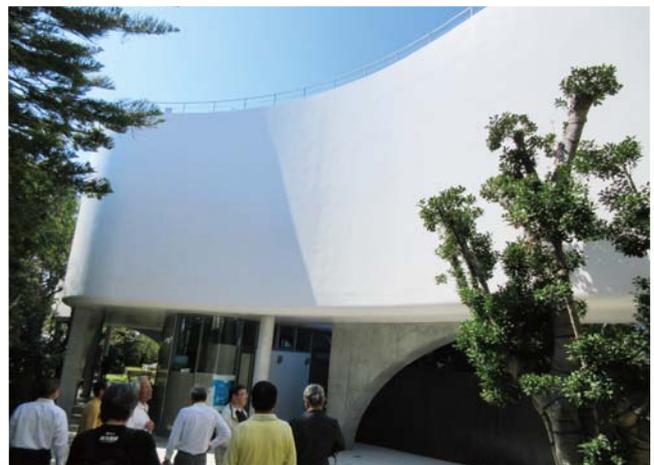
くじらの博物館



イルカショー

再び貸し切りバスで北上する、南紀白浜海水浴場の最西端にある南方熊楠記念館駐車場に到着、半島頂上にある記念館まで徒歩、急な登坂をゼイゼイ言いながら登った。

真っ白な記念館、弓なりになった外壁、内部は筒状の



南方熊楠記念館



南方熊楠記念館 ジオラマ模型



南方熊楠



展示室



ロビーホール



屋上

自然保護にも取り組み、「エコロジーの先駆者」として評価を受けている。

中でも最後自らを検体として解剖に出し、後世のためにと熊楠本人の脳のホルマリン漬けが標本として展示されていたのは圧巻でした。

記念館の前庭には昭和天皇歌碑が建つ。昭和4年6月陛下は御召艦長門に那智灘風外6隻を従え田辺港に御入港の際、熊楠が御案内役を務め、後召艦上で生物学について御進講申し上げたと記されている。神島に、昭和37年天皇陛下が再び行幸の際、亡き南方熊楠のお歌を詠まれた

「雨にけふる神島を見て 紀伊の國の生みし 南方熊楠を思ふ」

熊楠の業績顕彰と、文献・標本類・遺稿・遺品等膨大な資料の保存と公開、学術振興を目的として、記念館本館は昭和40年4月に3600万円を投じて開館、52年後、本館耐震工事と、記念館別館新築工事を同時に施工、平成29年3月開館した。

全国大会県外研修視察は、毎回であるが坂登り、石段登りは憑き物です、昼食前でお腹もすいてきた、再びバスで阪和自動車道路をさらに北上し、とれとれ市場に到着する。

待ち遠しい研修視察最後の昼食懇親会…、ここはお土産市場も併設していて、買い物もできました。和歌山駅に向かいバスに乗り込む、腹一杯思い出一杯で満喫した寝顔になった。和歌山駅15時到着少々の買い物をして、くろしお22号に乗り込む、新大阪で、東部・中部・西部と別れ解散となる。

全日程の企画から実行まで計画実施頂いた関係者の皆様には大変ご苦労様でした。有意義な大会式典と研修、懇親ができたもので在ったと感謝申し上げます。回想記とします。(西部担当 木下記)



南方熊楠記念館屋上にて

トプライトに鎖状の硝子玉が設置、吹き抜けの螺旋階段から展示ホールに上がると熊楠の粘菌の研究がずらりと並んでいる。

生きた粘菌を顕微鏡で見れるのはこの記念館だけと聞いている。

屋上展望台から見る360度パノラマは素晴らしく南紀の海、太平洋白浜海岸、田辺市が一望できた。熊楠は和歌山県出身の巨星とされた。植物学・菌類学者、また民俗学創始者として19歳から14年間アメリカ、イギリスに留学、10数が国語を使いこなした。



白浜の島並 南方熊楠記念館遠望



鳥取県産材木材とCLTの活用について



次世代の建材として木材を積層したCLT(直交集成板)が注目されているが、国内最薄CLTなどを利用した木造建築物の構造見学会が23日、鳥取市河原町稲常にある鳥取県林業試験場で開かれた。

県が地方創生拠点整備交付金事業を活用して2017年度、同所に建築している木造平屋建て延べ面積89.18㎡の屋内試験棟の耐力壁(構造体)などに利用されているもので、多くの県議会議員や自治体、建築・林業関係者など参加者約130人が今後、需要の拡大が予想される新しい建材に興味深く見学した。

この見物に使用した県産材は耐力壁に、厚36ミリで壁倍率3.3倍の3層パネルのスギCLT(共同組合レングス)、厚12ミリで壁倍率2.5倍の構造用合板(ヒノキ)張耐力壁(日新)、厚30ミリで壁倍率2.2倍のスギ厚板にヒノキダボを組み込んだスギ厚板耐力壁(県林業試験場)の3種類の建材を使用。屋根トラスの上弦材・束材に単板積層材のLVL(オロチ)、内装材に「とっとりスギごころ」のブランドで国内外に積極的に販路を開拓している厚9ミリのスギ無垢板(鳥取木材共同組合)が使用されている。

オープニング・セレモニーであいさつした県議会



約130人の参加者であふれかえった講堂

農林水産商工常任委員会の森雅幹委員長は、「木造の家は建てるけど、その木材の材は見えないように隠してあげれば安い方がいい、そのような家がどんどんと建つようになりました。きょうの見学会は、CLTを構造材として使ったり、ダボを使った耐力壁が国のJASの認証を受けたということで、これを多くの皆さん方に知っていただくという取り組みです。私たち議会も期待しています。今後これを契機に木材がますます民間の家あるいは公共の建物などに使われて、その対価が中山間地に還元されるのがまさに地方創生だと考えています」とあいさつし、新しい建材に期待感を示した。

県林業試験場の大北誠場長は「地道な我々の取組が着実に成果を生み出していると思っています。あす26日には、新国立競技場の設計に携わった隈研吾氏を講師に招いて、『先駆の木造建築シンポジウム』がとりぎん文化会館梨花ホールで開かれますので、ぜひとも多くの方に来場していただきたい」と話していた。

(日刊建設工業新聞提供)



CLT耐力壁、スギ厚板耐力壁などを見学する参加者

木造建築シンポ開催1000人が講演を聴く

県は26日、「先駆的木造建築シンポジウム」を鳥取市内のとりぎん文化会館で開催した。会場の梨花ホールには1000人が訪れ、国内外で活躍する建築家の隈研吾氏や石破茂衆議院議員の講演を聴いた。

平井伸治県知事は、2016年の鳥取県中部地震に触れ「木造の三佛寺の投入堂(三朝町)は壊れなかった。木が弱いという認識は大きな間違い。74%が森林の県土で、木とともに生きていくというコンセプトを感じてほしい」とあいさつ。

基調講演は新国立競技場の設計を担当する隈研吾氏が登壇。「世界中で木材を使う建築が目目されている」として、自身が国内外で設計を手掛ける多くの建物を紹介。このうち、20年に開催される東京オリンピックに向けて「新国立競技場の建築に47都道府県すべての木材を使用する」という見通しを示した。また、「木材建築を通して、鳥取の文化を世界に発信することが楽しみ」と話した。

石破議員は「林業・木材産業が地方創生に不可欠」とし、「国が地方の持つ力を引き出さなければならない公共事業に木材を活用すべき、林業の再生なくして地方創生はありえない」という考えを示した。

また、隈氏と平井知事の対談があり、県産木材の魅力と展望について語り合った。

隈研吾氏の講演会開催事務所協会記念式典もダブルブッキング?さらに悪いことは重なるもので、26日の鳥取市内は、お天道様(降雪)のご機嫌を損ねないように祈るしかない、そのような最悪な状況だった。この日は、2020年に開催される東京オリンピックのメイン会場となる新国立競技場の設計を手掛けた隈研吾氏を迎えた講演会が午後2時から開演。そして、午後4時からは、県建築士設計事務所協会の創立50周年の記念式典が開催された。

最も懸念されたのは、(1年の半分は海外での仕事で)世界中を飛び回って超多忙な隈さんを招いての講演会。隈さんは前日まで中国にいた。主賓の隈さんが本当に鳥取に来られるのかどうか。県の関係者は気を揉んでいた。「(スーパーはくとで来鳥する)隈先生は(兵庫県の)上郡あたり。(空路帰鳥する)石破先生は30分遅れで機上の人…。当日午前11時ころ、県庁で会話を交わした年男の千原伸興農林水産部森

林・林業振興局林政企画課長は、石破茂衆議院議員が本当に帰鳥できるかどうか一抹の不安はあったものの、安堵の表情を浮かべていた。



林業の再生を熱く語る石破代議士

最大で2000人が収容できるとりぎん文化会館の梨花ホールが会場。そんな悪天候の中、関係者の懸念を払拭するかのよう、1000人を超える多くの来場者が隈さんの講話を熱心に聴いた。隈さんの貴重な講話の中でとりわけ心に響いたのは、今、注目されている里山資本主義に代表されるように、自然といかに共生して人の営みができるかだろう。

山林が国土のおおよそ7割を占める日本では、森林(山や森を源流とする水)をどう治めるか。山林が国土の半分を支配する島国、日本にとっては、昔も今も不変の大きなテーマだ。「森林面積を74%」(隈さん)の鳥取県も森林保全活動の「共生の森」に力を入れている。

隈さんの講演内容の詳細は別の項に譲るとして、かくも盛大に開かれた県建築士事務所協会の創立50周年記念式典。会場となったのは、鳥取市の玄関口、JR鳥取駅前にあるホテルニューオータニ鳥取。鳥取市のランドマークであるこの建築物の設計を手掛けたのは、日本を代表する建築家だった今は亡き黒川紀章さん。その黒川さんの建築に対する思想といふか考えも「共生」だった。

鳥取市を代表するこの建築物も建築後45年後を経過し、耐震改修工事が計画されている。これまでに耳にしている話では、「昨年の夏ごろから3年間程度で施工する」ということだったが、施行方針が固まり、いよいよ着工することになったという。関係者の話では、この日会場となった鶴の間など会議場などはこれまで通り使用しながら1月28日から3月8日まで宿泊棟を閉館し、短期間で施工するという。

ホテルや旅館の耐震化工事で経営者が最も頭を悩ますので、当然のことながら、工事期間中の営業の問題。

サービス業(接客業)での居ながら工事がなかなか難しく、かといって営業を止めるとさらに持ち出しが必要になるからだ。倉吉市にあるホテルもこの問題を検討した結果、別棟を建て増しし、既存ホテルをリニューアル改修するそうだ。そんな話はともかく、このホテルがどのような方法を使って施工するか、いかに意匠を損なわないように施工するか、建築業界にとっては一見に値する。最後に、隈さんのモットーは「耳を良くして聞くことが仕事。」以前、NHKの番組でそう話していた。(日刊建設工業新聞提供)



隈研吾氏平井知事対談



時計塔と前庭

工事経過

工事は平成26年度に、準備工事として米川に仮設の橋を架けるところから始まり、仮設校舎に間借りしながら、旧管理棟・理科棟を解体し、平成27年度に新管理教室棟を建築、平成28年から29年度にかけて、西校舎耐震改修、北校舎の改修、多目的ホール棟の新築を完了し、現在西校舎への渡廊下の建築と外構の工事を平成30年5月完成に向けて進めています。

ここに至るまでには、建設に携わった方々をはじめ、非常に多くの皆様のご協力、ご支援のもと完成に向かっていきます。

学校を利用しながらの工事であるため、生徒や学校関係者の皆様には不自由をおかけしましたが、各工事の施工者様には、学校側と十分調整し、配慮していただき、安全第一で、ここまで無事故で来ていただきました。

また、地元自治会の皆様には、長年に渡り騒音等で多大な迷惑をおかけしましたが、御協力いただいたことで、工期にも大きな遅れが発生することなく施工することができています。

この場をお借りして、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

設計趣旨

- 1、自主自立を育む教育環境
- 2、施設機能を集約した使いやすい学校
- 3、地域に開かれた信頼される学校

設計趣旨の第一は **自主自立を育む教育環境** です。米子東高

にふさわしい学び舎とは、自ら学び自ら答えを導く教育空間であると考えて、「ラーニングストリート」と呼んでいる広い中廊下を中心に、管理部門や図書館・教室を配置し、既存建物を含めて教育環境を整備しています。「図書館」を1階の中心に配置することで、自己研鑽する生徒の様子が、学校全体を学びの空間にしています。「全日制教務室」を、校舎の重心となる2階に整備し、ホワイトボードやテーブルのある広い教務室前廊下が、生徒と先生の活発な学習交流の場となっています。今回完成した「多目的ホール」では、1学年350人が一堂に会して、授業や講演会などが行えます。窓から正面に大山が見えるように、建物を配置しました。

二番目は、施設を集約した **使いやすい学校** です。教職員や生徒が『使いやすく学習や部活に集中できる学校』となるように、敷地のほぼ中央に、新しい教室管理棟を創り、既存校舎と渡廊下でつないでいます。理系教室を3階に集約して、効率的な学習環境をわかりやすく整備しています。定時制はコンパクトに北校舎にまとめて、利便性を高めています。

三番目は、地域に開かれた **信頼される学校** です。東側のアプローチ道路から見える「時計塔」は、伝統ある学校らしさを表し、生徒や地域の方の心に残る造形としました。既存の「第一体育館」の前を、広場の様に外部に開放して、出入りしやすくようにし、入学式・卒業式や講演会に対応できるようにしています。また、敷地東側にある「同窓会記念庭園」を保存し、継承しています。

すべての人にやさしい、バリアフリー・ユニバーサルデザインの学校です。

建築物名称 鳥取県立米子東高等学校(鳥取県米子市勝田町1番地1)
敷地面積 71,055㎡
地域・地区 市街化区域/用途地域 第1種住居地域 第22条地域

新築建物

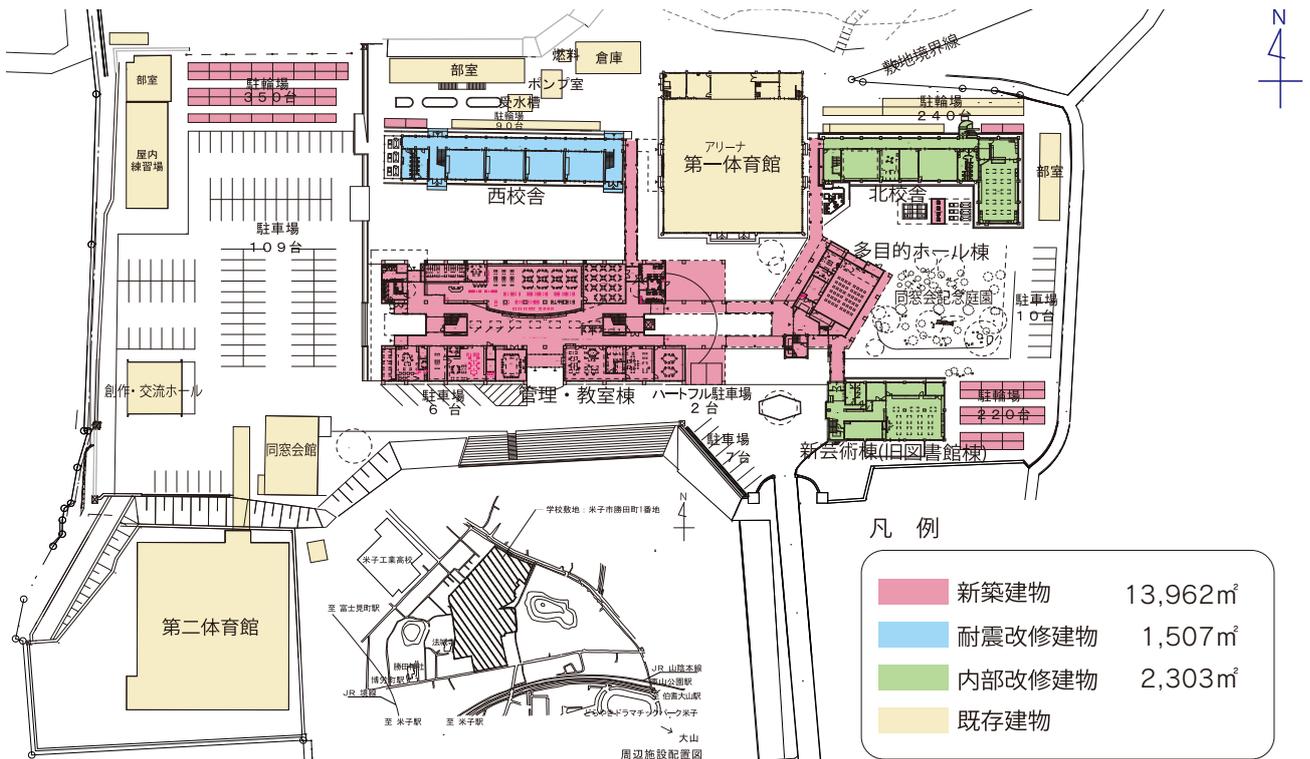
管理・教室棟、多目的ホール棟	鉄筋コンクリート造3階建	延べ床面積 6,536㎡
渡廊下	鉄骨造2階建	延べ床面積 212㎡
ポンプ室	コンクリートブロック平屋建	延べ床面積 17㎡
駐輪場	木造平屋建	延べ床面積 661㎡

耐震改修建物

西校舎	鉄筋コンクリート造3階建	延べ床面積 1,507㎡
-----	--------------	--------------

内部改修建物

北校舎	鉄筋コンクリート造3階建	延べ床面積 1,596㎡
新芸術棟(旧図書館島)	鉄筋コンクリート造2階建	延べ床面積 707㎡



西校舎南側外観



ラーニングストリートと図書館



多目的ホール棟と同窓会記念庭園



管理教室棟西側外観

北中建築設計事務所

代表 北中彰 氏



【はじめに】

昨年10月に設計事務所を開業いたしました。

実務をこなすうえで想像もつかないような壁にぶちあたり悪戦苦闘の日々を過ごしております。

それまで地元の工務店に20年お世話になりました。主に施工管理を行っておりましたので設計事務所運営には多大なる心配はありますが、今までの現場経験やお会いした多くの方々との関係を大切に頑張る所存であります。今後とも相変わりがせぬご指導宜しくお願い申し上げます。

【建築の仕事を目指したきっかけは】

小学生の時に家を建て替え、その時の大工さんのひたむきな姿に憧れ、物作りに興味を持ち始めました。なぜ、強風や地震でもこの建物は、そして橋は、トンネルは壊れないのか不思議でなりません。当然、高校生になっても答えが出るわけもなく、大学で建設の道に進むことになりました。未だに構造に対して理解できない部分も多くありますが、今後も追及していきたいと考えております。

【設計監理する上で心掛けていることは】

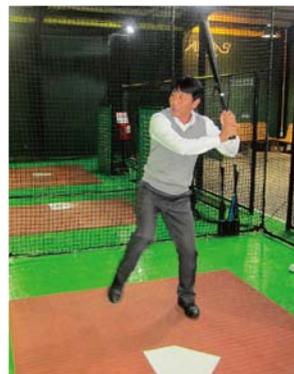
住宅、店舗の設計が比較的多く「お客様の財産を作る」ということを念頭に置き、できる限りお客様とお会いし、信頼関係を築いていくことを大切にしていきたいと考えております。

【今までに思い出に残る仕事は】

施工管理の立場からですが、倉吉市内の小学校の校舎の建設現場です。JVだったのですが、天候にも悩まされ、幾度も夜を徹しましたし、たくさん失敗もし、ふてくされ飲み歩くといい日々を過ごしたほろ苦い思い出がよみがえってきます。市長はじめ地域住民の皆様の思い入れもとても強く、厳しいプレッシャーを感じたのもこの現場が初めてでした。

【趣味・特技等は】

およそ40年間続けているのが野球です。そして20年以上になるのがギターと建築探訪です。野球にしてもギターにしても今でも現役でプレーし、心底大好きなのですが、いっこうに上達していないのが悩みでもあり、向上心を掻き立てる原動力になっているのかなと思います。そして建築探訪は設計のヒントを得るために出かけるのですが、机上で悩むのであれば実物を見ることにより、刺激を受けるとともに、いい気分転換になると考え時間が空けばふらふらっと…癖が治りません。



【さいごに】

一昨年10月21日に中部地震が発生して以来普段、安心して生活できることのありがたさを強く感じております。日々堅実に業と向き合いお客様に安心をお届けできるよう前に進んでゆきたいと思っております。(取材/戸田雅之)

一木会 平成29年度の活動報告

■第1回一木会例会

開催日 平成29年4月6日(木) 16時～

場所 しいたけ会館 対翠閣

参加人数 72名

- 1) 委員会報告
- 2) 賛助会員企業PR 10社
 - ①(株)アクアテック ②元旦ビューティー工業(株)
 - ③三洋マテック(株)
 - ④TOTO(株) ⑤ニチハ(株)
 - ⑥YKKAP(株)
 - ⑦オスモ&エーデル(株)
 - ⑧タカラスタンダード(株)
 - ⑨(株)ホクコン山陰営業所
 - ⑩(株)LIXIL
- 3) 賛助会員企業PR



■一木会幹事会

開催日 平成29年5月29日(月) 13時30分～

場所 しいたけ会館 対翠閣

■一木会総会

開催日 平成29年6月1日(木)
17時30分～

場所 しいたけ会館 対翠閣

参加人数 48名



■鳥取県建築士事務所協会東部支部、 鳥取県建築士会東部支部合同ゴルフコンペ

開催日 平成29年6月17日(土)

場所 鳥取カントリー倶楽部 吉岡温泉コース

参加人数 28名

■一木会幹事会

開催日 平成29年7月27日(木) 18時～

場所 日本料理 淳

■第2回一木会例会

開催日 平成29年8月3日(土) 16時50分～

場所 しいたけ会館 対翠閣

参加人数 47名

- 1) 委員会報告
鳥取県建築士事務所協会東部支部、鳥取県建築士会東部支部合同
ゴルフコンペ報告
- 2) 講演 『木造住宅耐震化推進について』
講師 鳥取県生活環境部 建築住宅課 遠藤課長
内容 鳥取県の住宅の耐震化の現状、木造住宅耐震化補助制度、低コスト耐震改修工法について意見交換
- 3) 納涼会

■一木会幹事会

開催日 平成29年10月5日(木) 16時～

場所 しいたけ会館 対翠閣

■第3回一木会例会

開催日 平成29年10月5日(木) 16時45分～

場所 しいたけ会館 対翠閣

参加人数 52名

- 1) 委員会報告
- 2) 賛助会員企業PR
 - ①オスモ&エーデル(株) ②土江建材TKボルト
 - ③(株)LIXIL ④YKKAP(株)
 - ⑤(株)モリックスジャパン ⑥タカラスタンダード(株)
 - ⑦福岡商事(株) ⑧(株)総合資格

■住まいの無料相談会開催

開催日 平成29年10月14日(土)・15日(日) 10時～17時

場所 鳥取産業体育館(鳥取市天神町50-2)

木の住まいフェアと同時開催

参加人数 門脇 昇、来田信浩、佐藤 実、早田照彦、塚田 隆
5名



※会員の皆様ご協力ありがとうございました。

■鳥取県建築士事務所協会東部支部、 鳥取県建築士会東部支部合同ゴルフコンペ

開催日 平成29年11月11日(土)

場所 旭国際浜村温泉ゴルフ倶楽部

参加人数 25名

■一木会幹事会

開催日 平成29年12月7日(木) 17時～

■第4回一木会例会

開催日 平成29年12月7日(土) 17時30分～

場所 しいたけ会館 対翠閣

参加人数 48名

- 1) 委員会報告
- 2) 鳥取県建築士事務所協会東部支部、鳥取県建築士会東部支部合同
ゴルフコンペ報告
- 3) 忘年会



一水会 平成29年度の活動報告

■平成29年度通常総会

ワールドトレイルズカンファレンス(WTC)鳥取大会のワールドウォークフェスタ in Tottoriに参加しました。

倉吉未来中心 パークスクエアを出発し、清秋の打吹山で森林浴を楽しみ、赤瓦地区の風情を満喫しながら、5.7kmを歩きました。

開催日 平成29年5月19日(金)

場 所 倉吉シティホテル

参加人数 例会：25名 懇親会：25名



■6月例会

研修内容

I・演題 『街なみ環境整備事業について』

講師 倉吉市管理計画課 谷澤耕二主任技術師
倉吉建設課 黒川英明係長

II・演題 『伝健地区の地震被害状況と制度について』

講師 倉吉文化財課 長谷川智郁課長

III・演題 『石造物、コンクリートの生物的風化対策』

講師 株式会社アクアテック 代表取締役 和田邦彦氏

開催日 平成29年6月7日(水)

場 所 白壁倶楽部(倉吉打吹伝統的建造物群内)

参加人数 例会：40名 懇親会参：40名



■8月例会

研修内容

演題 『設計に役立つ商品選定のポイント』
(インテリアの新しいトレンドと新商品のご提案)

講師 株式会社LIXIL鳥取営業所 加賀山貴氏

開催日 平成29年8月2日(水)

場 所 倉吉シティホテル

参加人数 例会：39名 懇親会：37名

講習後の恒例納涼懇親会では、ロングトオン松井美和子さん他トリオによる生ジャズ演奏を聴きながらの楽しい会になりました。



■10月例会

研修内容 TOTO株式会社 大阪特販第一部 プレゼンテーショングループ宮田奈緒子氏による熊本地震から考える災害に備えた水まわりセミナー

内容① 熊本地震被災地調査レポート

② 災害に備えた水まわりのポイント

開催日 平成29年10月4日(水)

場 所 ホテルセントパレス倉吉

参加人数 例会：37名 懇親会：37名



■12月忘年例会

忘年例会を開催いたしました。今回は羽合温泉にある「千年亭」に集まり年末の雑事を忘れ、会員同士今年一年の反省を語り合いながら盛り上がりました。

開催日 平成29年12月6日(水)

場 所 千年亭 参加人数 41名



■2月例会

研修内容 演題 『県立美術館』の創造をめざして

講師 鳥取県教育委員会理事監兼博物館長

田中規靖氏

開催日 平成30年2月7日(水)

場 所 ホテルセントパレス倉吉

参加人数 例会：35名 懇親会：35名

山水会 平成29年度の活動報告

■『5月例会』

講演 米子市市街化調整区域の開発許可基準一部変更について
米子市建設部建築指導課 主査兼開発指導係長 赤井貞治 氏

参加人数 74名

米子市より、市街化調整区域の開発許可基準一部変更について説明を受けました。規制緩和についてのお話で、建築士会等にも声をかけ、社員の皆様等多数の方に参加して頂きました。

■『8月例会』

講演 米子市の街づくりについて及び納涼会
米子市長 伊木隆司 氏

場所 皆生つるや **参加人数** 53名

新しく米子市の舵取り役になられた伊木米子市長をお迎えし、米子市の街づくりについてのご自身のお考えを講演頂き、その後は市長も一緒に納涼会で夏の夜の一日を楽しみました。



■『11月例会』

開催日 最近の建築状況
(一助)鳥取県建築住宅検査センター
理事長 田中佳久 氏

場所 米子食品会館

参加人数 40名

県内の確認申請受付件数の資料を基に現在の状況を説明して頂きました。

また、既存不適格建築物の増改築に係る緩和措置などについてもご説明頂きました。



■『12月例会』忘年会

場所 国際ファミリープラザ シュシュ

参加人数 54名

顧問の齊木正一県議及び賛助会員でもある野坂道明県議をお迎えし、県政報告会として講演して頂き、山水会の今年1年の締めくくりとして忘年会を開催し、楽しいひと時を過ごしました。

■米子市との意見交換会

場所 平成29年1月19日

参加人数 米子市 8人 西部支部会員 6人

米子市の錦織建設部長、小西建築指導課長、湯澤建築住宅課長ほか、建築指導課、建築住宅課の方々と同協会西部支部会員

とで日頃の米子市委託業務、建築申請、開発申請等について活発な意見交換を行いました。また、今回は他の部署からも担当者にご説明頂き有意義な会となりました。



■米子空港から行く香港旅行

開催日 平成29年6月14日～17日

参加人数 17名

例年国内の研修旅行を実施していますが、今年は米子空港からの直行便を利用して香港への旅行を実施しました。今年は6組のご夫婦も参加され大変なごやかな旅行となりました。



■住まいの無料相談会

開催日 平成29年9月17日

場所 米子産業体育館

参加人数 6名(西部支部会員)

鳥取県木の住まいフェアにあわせて住まいの無料相談会を行いました。耐震、リフォーム、土地など 天気が悪かったにも関わらずたくさんの方に来場いただき、さまざまな相談を受けました。



■ゴルフコンペ

開催日 平成29年11月17日(金)

場所 大山ゴルフクラブ

参加人数 16名

		OUT	IN	GROSS	HC	NET
優勝	千久谷知之	50.44	94	21.6	72.4	
準優勝	亀山 浩一	43.48	91	18.0	73.0	



会議報告

■第29年度事業等監査会

日 時／平成29年4月27日(木)10:00～
場 所／事務所協会事務局
出席者／理事、会長、副会長

■平成29年度定時総会

日 時／平成29年5月19日(金)15:45～
場 所／倉吉シティホテル
出席者／会員



■第1回理事会

日 時／平成29年5月9日(火)15:00～
場 所／伯耆しあわせの郷
出席者／理事18名、監事3名

■第2回理事会

日 時／平成29年5月19日(金)15:30～
場 所／倉吉シティホテル
出席者／理事20名、監事3名

■第3回理事会

日 時／平成29年8月8日(火)10:00～
場 所／伯耆しあわせの郷
出席者／理事17名、幹事3名

■第4回理事会

日 時／平成29年10月17日(月)15:00～
場 所／伯耆しあわせの郷
出席者／理事17名、監事3名

■第5回理事会

日 時／平成30年3月29日(木)15:00～
場 所／伯耆しあわせの郷
出席者／理事16名、監事3名

■第6回理事会

日 時／平成30年3月29日(木)15:00～
場 所／伯耆しあわせの郷
出席者／理事16名、監事3名

■第1回三役会

日 時／平成29年4月27日(木)10:00～
場 所／事務所協会事務局
出席者／会長、副会長、専務理事

■第2回三役会

日 時／平成29年8月1日(火)10:00～
場 所／事務所協会事務局
出席者／会長、副会長、専務理事

■第3回三役会

日 時／平成29年10月2日(月)13:30～
場 所／事務所協会事務局
出席者／会長、副会長、専務理事

■第4回三役会

日 時／平成30年1月16日(火)14:00～
場 所／事務所協会事務局
出席者／会長、副会長、専務理事

■第5回三役会

日 時／平成30年3月21日(火)10:00～
場 所／事務所協会事務局
出席者／会長、副会長、専務理事

■第1回総務企画委員会

日 時／平成29年7月28日(金)10:30～
場 所／中央公民館・羽合分館(ハワイアロホール)
出席者／担当副会長、委員長、副委員長、委員

■第2回総務企画委員会

日 時／平成29年10月24日(火)17:00～
場 所／エキパル倉吉
出席者／担当副会長、委員長、副委員長、委員

■第1回回業務技術委員会

日 時／平成29年6月29日(木)14:30～
場 所／伯耆しあわせの郷
出席者／担当副会長、委員長、副委員長、委員

■第2回回業務技術委員会

日 時／平成29年7月27日(木)13:30～
場 所／事務所協会事務局
出席者／担当副会長、委員長、副委員長、委員

■第3回回業務技術委員会

日 時／平成29年10月27日(金)10:00～
場 所／伯耆しあわせの郷
出席者／担当副会長、委員長、副委員長、委員

■第4回回業務技術委員会

日 時／平成29年12月18日(月)13:30～
場 所／事務所協会事務局
出席者／担当副会長、委員長、副委員長、委員

■第1回広報編集委員会

日 時／平成29年9月28日(木)10:00～
場 所／事務所協会事務局
出席者／担当副会長、委員長、副委員長、委員

■第2回広報編集委員会

日 時／平成29年10月24日(火)10:00～
場 所／事務所協会事務局
出席者／担当副会長、委員長、副委員長、委員

■第3回広報編集委員会

日 時／平成29年11月22日(水)10:00～
場 所／事務所協会事務局
出席者／担当副会長、委員長、副委員長、委員

■第4回広報編集委員会

日 時／平成29年12月5日(火)10:00～
場 所／事務所協会事務局
出席者／担当副会長、委員長、副委員長、委員

■第5回広報編集委員会

日 時／平成29年12月21日(木)10:00～
場 所／事務所協会事務局
出席者／会長、副会長、委員長、副委員長、委員

■第6回広報編集委員会

日 時／平成30年1月12日(金)10:00～
場 所／事務所協会事務局
出席者／委員長、副委員長、委員

■第7回広報編集委員会及び反省会

日 時／平成30年2月8日(木)16:30～

場 所／四季庵 米子駅前店
出席者／担当副会長、委員長、副委員長、委員

■第8回広報編集委員会及び反省会

日 時／平成30年3月1日(木)10:00～
場 所／事務所協会事務局
出席者／担当副会長、委員長、副委員長、委員

■日事連 青年話劇会

日 時／平成29年10月5日(木)
場 所／ホテルアパーム紀の国
参加者／村中・小谷理事

■第41回建築士事務所全国大会 (和歌山大会)及び県外研修

日 時／平成29年10月6日(金)～8日(日)
場 所／和歌山県民文化会館
参加者／籍村会長他28名

講習会

■平成29年度第3期一級/二級/木造建築士定期講習(事務所協会担当)

日 時／平成29年10月11日(水)9:00～
場 所／伯耆しあわせの郷
受講者／68名

■「実例に学ぶ建築士事務所のトラブル 予防」研修会

日 時／平成29年12月5日(火)9:00～12:00
場 所／伯耆しあわせの郷
講 師／㈱日事連サービス 相談役 中川 孝昭
(一社)鳥取県建築士事務所協会 副会長 塚田 隆
受講者／5名(会員4名、会員外1名)

■「実務者のための工事監理ガイドライン の運用解説」講習会(DVD講習)

日 時／平成29年12月5日(火)13:00～17:15
場 所／伯耆しあわせの郷
受講者／4名(会員3名、会員外1名)

■平成29年度鳥取県との意見交換会

日 時／平成30年2月7日(火)

■「木造住宅耐震改修低コスト工法講習会」 ～耐震リフォーム達人塾(設計者編)～

日 時／平成30年3月5日(月)10:00～16:30
場 所／伯耆しあわせの郷
講 師／名古屋工業大学大学院 教授 井戸田 秀樹
名古屋工業大学高度防災工学センター 客員教授 川端 寛文
(株)えびす建築研究所 代表取締役 花井 勉
NPO法人 耐震化アドバイザー協議会 丸谷 勲
耐震の専門化集団・木造耐震ネットワーク知多 成田 完二



鳥取県生活環境部くらしの安心局
住まいまちづくり課 担当者
受講者 / 28名

■第4期一級/二級/木造建築士定期講習 (事務所協会担当)

日 時 / 平成30年3月7日(水)
場 所 / 伯耆しあわせの郷
DVDによる小規模講習
受講者 / 36名

■平成29年度「開設者・管理建築士のための 建築士事務所の管理研修会」

日 時 / 平成30年3月14日(水)9:30~16:20
場 所 / 伯耆しあわせの郷
講 師 / 鳥取県生活環境部くらしの安心局
住まいまちづくり課
(旬日事連サービス 相談役 中川 孝昭
(一社)鳥取県建築士事務所協会副会長
吉田 成年 塚田 隆
受講者 / 20名(会員9名、会員外11名)



建築物耐震診断等評定業務

■第57回鳥取県耐震診断等評定委員会

日 時 / 平成29年7月29日(土)
場 所 / とりぎん文化会館
対象建物(県・市・町有施設)6棟

■第58回鳥取県耐震診断等評定委員会

日 時 / 平成29年12月4日(月)
場 所 / とりぎん文化会館
対象建物(県・町有施設)5棟

■鳥取県耐震診断等評定委員会(専門委員会)

第57回 平成29年7月14日(事前審査)
平成29年7月25日(指摘事項確認)
平成29年8月18日(指摘事項確認)
第58回 平成29年11月21日(事前審査)
平成29年11月29日(指摘事項確認)
平成29年12月19日(指摘事項確認)

受託業務

■各市・町 木造住宅耐震診断業務(平成29年2月現在)

鳥取市17件、倉吉市26件、米子市11件、境港市
55件、北栄町10件、伯耆町3件

■鳥取県木造住宅耐震化専門業者公表審査

日 時 / 平成30年1月23日(火)13:30~
場 所 / 伯耆しあわせの郷
受講者 / 6名

創立50周年記念事業

■「記念講演会」

日 時 / 平成29年11月25日(土)14:00~
場 所 / ハワイアロハホール
講 師 / 伊東 豊雄 氏
第一部:「建築家からのメッセージ」~私の建築人生を通して~
第二部:クロスセッショントーク
参加者 / 約500名

■記念式典・祝賀会

日 時 / 平成30年1月26日(金)
記念式典16:00~ 祝賀会17:00~
場 所 / ホテルニューオータニ鳥取「鶴の間」
参加者 / 記念式典 118名(来賓23名 正会員48名、
賛助会員44名、事務局3名)
祝賀会 115名

会員の異動

■正会員入会(平成29年4月~平成30年3月)

小椋設計事務所
〒689-2201 鳥取県東伯郡北栄町西園509-1
開設者: 小椋 真美江
管理建築士名: 小椋 真美江

(有)杉内建築設計事務所
〒689-1111 鳥取市若葉台北6丁目4-19
開設者名: 杉内 勝成
管理建築士名: 杉内 勝成

マツウ建築設計事務所
〒689-1101 鳥取市杉崎字大政476番地
開設者名: 松岡 力也
管理建築士名: 加藤 恵子

(株)伊藤建設
〒689-2304 鳥取県東伯郡琴浦町大字逢東873番地
開設者名: 伊藤 典章
管理建築士名: 山本 浩

(株)千代田工務店 一級建築士事務所
〒680-0033 鳥取市二階町3丁目210番地
開設者名: 荒田 潤之助
管理建築士名: 荒田 潤之助

(株)ジューケン
〒680-0905 鳥取市賀露町113番地2
開設者名: 加藤 辰宏
管理建築士名: 明治 功

北中建築設計事務所
〒682-0021 倉吉市上井772-11
開設者名: 北中 彰拓
管理建築士名: 北中 彰拓

■賛助会員入会(平成29年4月~平成30年3月)

(株)中西製作所 岡山営業所
〒700-0971 岡山市北区野田一丁目2番3号

(株)中電工 鳥取統括支社
〒680-0811 鳥取市西區治字田島前ノ二816番地1

(有)向井組
〒682-0021 倉吉市上井265番地5

(株)建築資料研究社 日建学院 鳥取校
〒680-0846 東京都港区芝5-13-15

(株)シェルター 東京支社
〒108-0014 鳥取市扇町116
田中ビル2号館6F

■代表者変更(正会員)

(株)グリーンコープ建築設計事務所
〒682-0867 倉吉市越殿町1408
【新】代表取締役 上本 武

田中工業(株)設計事務所
〒680-0902 鳥取市秋里1247
【新】代表取締役 田中 健志

松本組一級建築士事務所
〒683-0103 米子市富益町69-5
【新】代表取締役 椋田 隆博

■管理建築士変更(正会員)

ティビエム環境設備設計事務所
〒683-0035 米子市目久美町34番地2
【新】管理建築士 赤井 優

懸樋一級建築事務所
〒680-1417 鳥取市桂見573番地
【新】管理建築士 高西 昭生

編集後記

平成28、29年度と一期2年にわたり、会員の皆様には大変なご苦勞とご協力を経て、会報 建築とつとりを95、96、97号と3回発行することができました。

平成29年11月~平成30年1月は、本協会創立50周年記念事業として、記念誌の発行事業にかかわり、無事に発行ができたことは貴重な体験となりました。

原稿依頼、校正、デザインの経過の中で、思いもよらない出来事が発生したことなど、今はよき思い出になりましたが、達成感で一杯です。会員皆様の今後の活躍と、この会報 建築とつとりが、長期に継続することを祈念し、関係各位の方に感謝を申し上げ、編集後記といたします。

ありがとうございました。

広報編集委員長 木下 俊哉



大神山神社奥宮

「大神山神社奥宮」

写真は大山寺の奥深い位置にある大神山神社奥宮の冬景色…明治維新で寺領を失った大山寺は、明治8年(1875)に寺号廃絶のうえ大智明権現社が大神山神社奥宮に定められ今に至る。

大山寺は山号を角盤山といい、中国地方の最高峰大山の中腹に所在する天台宗の山林寺院である。平安時代後期には、天台密教、浄土信仰、神道及び修験道の影響のもと、大智明権現を信仰の核に、釈迦如来、阿弥陀如来、大日如来の信仰をそれぞれ中心とする、南光院、西明院、中門院の三院が成立したとされる。

近世には、幕府から寺領三千石を安堵され、西楽院を本坊として、三院とその僧坊を支配する一山三院四十二坊の体制が確立した。そして、牛馬の守護神や祖霊神の信仰と結びついて発展し、近世後期には大山信仰圏は中・四国地方に拡大して隆盛を誇った。

旧境内には、廃絶した子院(僧坊)跡にも、石垣、土塁、参道なども良好に残っており、往時を偲ばせる。



牛馬市絵図

「大山牛馬市」博労座

大山の裾野に自然に生まれた牛馬の市は、江戸時代には大山寺に庇護され、信仰に裏打ちされた全国唯一の「大山牛馬市」へと発展した。

江戸時代後期には日本三大と言われるまでに隆盛を極め、さらに明治時代には日本最大の牛馬市へと発展した。

大山寺へ続く「大山道」(坊領道、尾高道、溝口道、丸山道、横手道、川床道)沿いは、西国諸国からの参詣者や牛馬を運んだ商人などの往来でにぎわった。

大山寺付近の広大な牧野周辺で開催されていた牛馬市が、享保11(1726)年に大山寺境内の前方に広がる広大な草場が牛馬取引会場の博労座と定められた。明治17(1884)年には博労座牛馬市の取引は12,000頭にのぼり、昭和12(1937)年までこの場所で多くの牛馬の取引が行われた。

(文：守山 康仁)



牛馬市風景

建築とつとり 2018.3 第97号

発行／一般社団法人 鳥取県建築士事務所協会

〒680-0022 鳥取市西町2丁目102 西町フロインドビル2F
TEL.0857-23-1728 FAX.0857-21-6112

URL. <http://31kjk.com> E-mail: jimu31@maple.ocn.ne.jp

編集：広報編集委員会